

看護学科（2020年度～2021年度入学生）

基礎科目								
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
19JUN101	看護学セミナー	1	19HUM111	論理学	1	19LAN121	英語看護論文講読	3
19HUM102	Science Basics	1	19HDE112	教育学概論	1	19LAN122	Reading & Writing	1～4
19ART103	人間とアート	1	19HDE113	心理学概論	1	19HUM123	社会学概論	1
19HUM104	文章表現法	1	19HDE114	発達心理学	1	19HUM124	社会と法律	1
19HUM105	Humanities Basics	1	19HUM115	運動実技・理論Ⅰ	1	19HUM125	情報科学	1
19JUN106	キリスト教学	1	19HUM116	運動実技・理論Ⅱ	2	19HUM126	文化人類学	1
19JUN107	純心平和学	2	19LAN117	英語Ⅰ	1	19HUM127	家族社会学	1
19JUN108	哲学	2	19LAN118	英語Ⅱ	1	19ART128	合唱音楽	1
19JUN109	宗教学	2	19LAN119	看護英語	2	19ART129	美術療法	3
19HUM110	倫理学	1	19LAN120	英語Ⅲ	2	19ART130	音楽療法	3

看護の基礎								
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
19NBA201	形態機能学Ⅰ	1	19NBA209	栄養学	1	19NBA217	保健医療福祉システム論	2
19NBA202	形態機能学Ⅱ	1	19NBA210	感染予防学	1	19NPR218	ヘルスプロモーション論	1
19NBA203	形態機能学Ⅲ	1	19NBA211	疾病治療論Ⅰ	1	19NBA219	人間関係論Ⅰ	1
19NBA204	形態機能学演習	1	19NBA212	疾病治療論Ⅱ	1	19NBA220	人間関係論Ⅱ	2
19NBA205	医療概論	1	19NBA213	疾病治療論Ⅲ	2	19NBA221	人間関係論Ⅲ	4
19NBA206	病理学	1	19NBA214	疾病治療論Ⅳ	2	19NBA222	看護倫理	2
19NBA207	薬理学	2	19NBA215	疾病治療論Ⅴ	2	19NBA223	看護情報学	1
19NBA208	生化学	1	19NBA216	看護の関係法規	4	19NBA224	臨床心理学	3

看護の実践								
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
19NBA301	看護学概論	1	19NPR307	フィジカルアセスメント	2	19NPR324	精神看護学Ⅱ	2
19NPR302	看護技術演習Ⅰ	1	19NPR308	基礎看護学実習Ⅰ	1	19NPR325	精神看護学Ⅲ	3
19NPR303	看護技術演習Ⅱ	1	19NPR309	基礎看護学実習Ⅱ	2	19NBA326	家族看護学	2
19NPR304	看護技術演習Ⅲ	2	19NPR321	母性看護学Ⅰ	2	19NPR327	終末期・緩和看護学	3
19NPR305	看護理論	1	19NPR322	母性看護学Ⅱ	2	19NPR328	がん看護	3
19NPR306	看護過程	2	19NPR323	精神看護学Ⅰ	2	19NPR329	補完代替医療と看護	3

看護の実践								
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
19NPR310	発達看護学Ⅱ（成人）	2	19NPR316	老年看護学Ⅱ	2	19NPR331	成人看護学実習Ⅱ	3
19NPR311	成人看護学Ⅰ	2	19NPR317	発達看護学Ⅰ（小児）	2	19NPR332	老年看護学実習Ⅰ	2
19NPR312	成人看護学Ⅱ	3	19NPR318	小児看護学Ⅰ	2	19NPR333	老年看護学実習Ⅱ	3
19NPR313	成人看護学Ⅲ	3	19NPR319	小児看護学Ⅱ	2	19NPR334	小児看護学実習	3
19NPR314	発達看護学Ⅲ（老年）	1	19NPR320	小児看護学Ⅲ	3	19NPR335	母性看護学実習	3
19NPR315	老年看護学Ⅰ	2	19NPR330	成人看護学実習Ⅰ	3	19NPR336	精神看護学実習	3

看護の発展								
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
19NAD401	医療安全	3	19NAD407	看護行政と看護の展望	4	19NPR413	在宅看護学実習	3～4
19NAD402	医療経済論	4	19NAD408	看護論	4	19NAD414	統合実習	4
19NAD403	多職種連携論	4	19NAD409	看護教育論	4	19NAD415	看護研究方法	2
19NAD404	看護管理学	4	19NAD410	看護技術フォローアップ演習	4	19NAD416	看護研究Ⅰ	2～3
19NAD405	国際看護学	1	19NPR411	在宅看護学Ⅰ	2	19NAD417	看護研究Ⅱ	4
19NAD406	災害看護学	1	19NPR412	在宅看護学Ⅱ	3			

授業科目名	看護の関係法規	担当教員名	青木 浩文			
コード	19NBA216	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理のかつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					

【授業の概要】

この科目では、看護関係法規に関する基礎知識の習得を目指すとともに、看護実務に就いた後に必要となる、看護師の法的責任(民事上の責任、刑事上の責任、行政上の責任)についての知識、並びに「インフォームド Consent」「ヒヤリハット」「看護記録の重要性」といった医療安全に関する基本的な知識を習得することを目的としている。看護師国家試験合格のために看護関係法規の知識を習得することは当然であるが、患者の権利を保護しつつ、看護業務を適切かつ安全に遂行する上で、看護師の法的責任及び医療安全に関する知識も必要不可欠といえるものであり、看護師を目指す者としてその習得は必須と考えられる。原則として講義形式の授業であるが、自ら考え、他者に理解できるよう自身の言葉で意見を述べる能力を養成するため、講義中も積極的に学生の発言を求める予定である。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 保健師助産師看護師法、医療法、医師法などをはじめとする看護関係法規の趣旨、目的、制度枠組みなどを把握すること。	○			○	
2 上記1で把握した知識ないし情報を応用して、看護師国家試験に合格することのできる力を養うこと。	○			○	
3 看護実務に就いた後に必要となる、看護師の法的責任(民事、刑事、行政上の責任)について理解すること。	○			○	
4 インフォームド Consent、ヒヤリハット及び看護記録の重要性など、医療安全に関する基本的知識を習得すること。	○			○	
5 将来、上記3及び4にて修得した法的な観点を意識し、念頭に置きながら適切かつ安全に看護業務を遂行できるようになること。	○			○	

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	看護の関係法規Ⅰ ・看護師の法的義務や業務範囲を定める保健師助産師看護師法についての解説。	青木	予習(30分):各自が使用するテキストの該当箇所を通読しておく。 復習(30分):講義で配布したスライド資料及び講義中にとったメモを再読する。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	看護の関係法規Ⅱ ・保健師助産師看護師法の解説。 ・医療法、医師法の解説。	青木	同上。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	看護の関係法規Ⅲ ・臨床看護に従事する看護師の法的責任(民法上の責任)の解説。	青木	予習(0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中にとったメモを再読する。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	看護の関係法規Ⅳ ・臨床看護に従事する看護師の法的責任(民法上、刑事上、行政上の責任)の解説。	青木	予習(0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中にとったメモを再読する。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	看護の関係法規Ⅴ ・看護事故の実際(著名な看護事故裁判例を素材として)	青木	予習(0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中にとったメモを再読する。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	看護の関係法規Ⅵ ・ヒヤリハットの解説及び具体的な事例の検討 ・インフォームド Consentの意義についての解説。 ・看護記録の重要性の理解。	青木	予習(0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中にとったメモを再読する。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	随時試験	青木	予習(120分):これまでの授業内容を総復習する。
8	随時試験の解説・講評	青木	復習(60分):定期試験の問題を総復習する。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			

【課題のフィードバック】	
定期試験の実施、回収後、解答についての解説を行う。	
【成績の評価方法】	
定期試験の成績(100点満点)で評価する。	
【生成AI利活用(無)】	
【ルーブリック評価の活用(無)】	
【履修申請上の条件】	
特になし。	
【教科書】	
特になし。自作のスライド教材に沿って講義を進める。	

【参考書】 特になし。自作のスライド教材に沿って講義を進める。
【オープンな教育リソース】 特になし。
【担当教員の実務経験】 医療機関側の代理人弁護士として実際に医療事件の処理を行ってきた経験を踏まえた講義を行う。
【オフィスアワー】 特になし
【教員連絡先】 下記メールアドレスまで御連絡ください。 aoki@hiroaoki-law.com
【備考】 ①講義中、学生の皆さんに発言を求めることがありますので、その際は、自分自身の考えを積極的に述べることを期待しています。 ②本講座の時間外学習時間は、トータルで30時間必要であるため、不足分は休日等を活用して予習、復習をしてください。

授業科目名	人間関係論Ⅲ	担当教員名	福永ひとみ　大胡晴香			
コード	19NBA221	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	②　倫理のかつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					

【授業の概要】

看護場面についてのロールプレイや文献学習などのグループ学習を通して、患者－看護師関係について深く考察し、治療的関係の成立を目指した支援について学修する。

具体的には、ペプロウの看護論を用いて分析・考察された先行研究の文献レビューを行う。

既習の看護学実習で体験した受け持ち患者との対応場面を取り上げ、プロセスレコードを記載し、患者－看護師関係の視点、及びペプロウの発展段階・役割変化の視点で考察する。

グループ演習では、プレゼンテーション、検討会の運営について学修する。最終課題として事例のレポート作成を学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1　患者-看護師関係に関する原著や総説論文等を要約し、意見交換できる。	○				
2　看護場面のロールプレイングにおいて、選定の理由、患者の紹介、場面の特徴などについて意見交換できる。	○				
3　体験した看護場面をプロセスレコードを用いて、分析の視点に基づいて意見交換できる。	○				
4　演習場面の患者の状態や患者-看護師関係の段階に応じた適切なコミュニケーションのあり方について、根拠を元に意見を述べることができる。		○			
5　根拠を元に、発表者の考えを支持したり、自己の意見を明確に述べることができる。		○			
6　選定した自己の看護場面について、患者-看護師関係に関するサブテーマを設定し、論文形式でまとめることができる。					○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	イントロダクション 看護場面の再構成、プロセスレコードの分析の視点について 【演習】場面の選定	福永ひとみ	予習(120分):人間関係論(対人支援論)ⅠⅡで学んだ内容について復習。 既習の看護学実習で体験した看護場面の中から、患者－看護師関係の視点で振り返りたい場面を考えてくる。 復習(60分):配布資料を見直し、授業ノートの整理、選定場面の精選
2	人間関係に関する文献検討①【演習】	福永ひとみ	予習(60分):文献検索方法について復習 課題1「ペプロウ人間関係論を用いた看護研究の要約」文献と要約 A4 1枚程度 復習(120分):配布資料を見直し、授業ノートの整理、課題1作成
3	人間関係に関する文献検討②【演習】 文献検討会	福永ひとみ	予習(90分):文献要約を見直し、プレゼンテーションの準備 復習(60分):配布資料を見直し、授業ノートの整理、課題の不足分の補足
4	人間関係に関する文献検討③【演習】 文献検討会	大胡　晴香	予習(90分):文献要約を見直し、プレゼンテーションの準備 復習(60分):配布資料を見直し、授業ノートの整理、課題の不足分の補足
5	看護場面の再構成、ロールプレイング【演習】 プロセスレコード検討会	福永ひとみ	予習(120分):プロセスレコードの分析視点の確認、異和感の対自化・コミュニケーション技法、課題2の作成 課題2「看護場面のプロセスレコード」 復習(60分):授業ノートの整理、プロセスレコード分析の不足点を補足する
6	看護場面の再構成、ロールプレイング【演習】 プロセスレコード検討会	大胡　晴香	予習(120分):プロセスレコードの分析視点の確認、異和感の対自化・コミュニケーション技法、課題2を読む 課題2「看護場面のプロセスレコード」 復習(60分):授業ノートの整理、プロセスレコード分析の不足点を補足する
7	最終課題の記載	福永ひとみ	予習(90分):プロセスレコードの検討会で気づいたことを整理する 課題3「再分析し追記・訂正したプロセスレコード」 復習(120分):最終課題に取り組む
8	まとめ【学習成果発表会】	福永ひとみ 大胡　晴香	予習(120分):最終課題の内容を見直し、プレゼンテーションの準備 最終課題「患者-看護師関係に関するサブテーマを設定し、取り上げた看護場面をまとめる」 論文形式A4 枚数制限なし

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・提出課題等は、次回講義時に全体にフィードバックする。個別にも対応する。

・フィードバックは、レポートにコメントを記入して返却する。

【成績の評価方法】

1　課題1(20%)、課題2、3(30%)、最終課題(50%)　合計100％

2　評価基準　課題1は、チェック項目(文字数、体裁、誤字脱字、提出場所・日、役割遂行)5点、
基準　1)文献選択　2)選択の背景と理由　3)文献の要約　4)テーマに対する位置づけ　について、3点:とてもよい、2点:よい、1点:努力が必要　で評価する

課題2、3は、チェック項目(文字数、体裁、誤字脱字、提出場所・日、役割遂行)6点、
基準　1)場面・目的　2)対象の言動　3)私の感じ・考え　4)私の言動　5)相互作用の分析　6)自己一致の分析　7)対象の考察　8)ペプロウ発展段階・役割の考察　について、
3点:とてもよい、2点:よい、1点:努力が必要　で評価する

最終課題は、チェック項目(文字数、体裁、誤字脱字、提出場所・日、発表会役割遂行)8点、
基準　1)はじめに　2)患者紹介　3)看護展開　4)考察　5) おわりに　6)文献引用明記　7)学習姿勢　について、3点:とてもよい、2点:よい、1点:努力が必要　で評価する

【生成AI利活用（　無　）】

【ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】
1 人間関係論Ⅰ、Ⅱ（対人支援論Ⅰ、Ⅱ）を履修していること 2 受け持ち患者をもつ実習科目を履修していることが望ましい
【教科書】
1) Perlau, H. E.:Interpersonal Relations Nursing,1952.(稲田八重子他訳. 人間関係の看護論. 医学書院, 1973.)
【参考書】
必要時、授業の中で紹介する
【オープンな教育リソース】
特になし
【担当教員の実務経験】
看護師資格を持ち、臨床看護の実務経験を有す
【オフィスアワー】
月、火、水、木曜日 昼休み時間（12:10～13:00）
【教員連絡先】
福永研究室 A棟3階 3316号室 hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp 大胡研究室 B棟3階 3323号室 hogo@g.t-junshin.ac.jp
【備考】
各課題の提出期限は、講義時に提示する。欠席時は、後日、本人が提出(代理提出不可)。

看護学部

2024(令和6)年度

授業科目名	医療経済論	担当教員名	大岡 正道					
コード	19NAD402	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択			
			○					
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。							
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。							
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。							
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。							
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。							
【授業の概要】								
わが国における国民医療費は、少子高齢化の進行とともに増大の一途をたどっており、医療の分野を経済的視点でとらえた課題への対応が求めれている。医療保険制度が抱える課題について、経済学的な分析方法を応用しながら制度の評価を行う。医療サービスは日本を含め多くの国で政府による強い規制下におかれている。効率性と公平性を達成するために、どのような規制や制度設計が必要か、近年の診療報酬改定の問題点を抽出し、基本的な経済学の分析手法、制度評価の方法を学修する。□								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】				ディプロマ・ポリシー				
				①	②	③	④	⑤
1 わが国の医療制度、保険請求の流れや医療を取り巻く現状、自由診療や混合診療の問題点について説明することができる。							○	○
2 費用対効果の基礎知識について説明することができ、医療においてはどのようなことが課題として議論されているかを理解できるようにする。							○	○
3 病院におけるDPC／PDPS(診断群分類別包括支払い制度)について説明することができる。								○
4 病院経営指標の基礎知識を理解し、説明することができる。								○
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	わが国の保健医療システムと国民医療費	大岡	予習(15分):保健医療システムと国民医療費の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認しておくこと 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。					
2	国民皆保険、自由診療・混合診療	大岡	予習(15分):自由診療・混合診療の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認しておくこと 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。					
3	費用対効果	大岡	予習(15分):費用対効果の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認しておくこと 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。					
4	病院におけるDPC／PDPS(診断群分類別包括支払い制度)	大岡	予習(15分):DPC／PDPSの基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。					
5	病院経営指標の基礎知識:病院の損益と収支	大岡	予習(15分):損益と収支の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。					
6	病院経営指標の基礎知識:経営の可視化	大岡	予習(15分):テーマに沿った基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。					
7	病院経営指標の基礎知識:入院、外来診療に関する基礎的な指標	大岡	予習(15分):診療に関する指標の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。					
8	病院経営指標の基礎知識:付加価値額と労働生産性、労働分配率	大岡	予習(15分):付加価値額の基本的な知識を予習しておくこと 復習(30分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)								
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)								
③:ディスカッション・ディベート		○						
④:グループワーク								
⑤:プレゼンテーション		○						
⑥:実習・フィールドワーク								
【課題のフィードバック】								
医療経済や医療システムに関する日々のニュースに関心を持って、講義内容と突合させる。 課題は、次回講義時にフィードバックする。								
【成績の評価方法】								
授業参加度(発言・発表):20% 課題:80% 合計:100%								
【生成AI利活用(有・無)】								
【ループリック評価の活用(無)】								
【履修申請上の条件】								
特になし								
【教科書】								
特になし								

【参考書】
看護のための経営指標「見る・知る・活かす」使いこなし超入門: 経営参画への道が拓ける!／小宮清編集 (JANコード/ISBNコード:9784840450263)
【オープンな教育リソース】
特になし
【担当教員の実務経験】
東京純心大学の講義を2022年から担当。医師として、専門分野において、医療・看護を経済的視点より講義する。
【オフィスアワー】
学務課を通して対応可。
【教員連絡先】
学務課へメールにて連絡。 E-mail:u_gakumu@g.t-junshin.ac.jp
【備考】
特になし

授業科目名	多職種連携論	担当教員名	峯下 昌道・宮川 恵子・行田 菜穂美			
コード	19NAD403	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					

【授業の概要】

医療の高度化、専門分化に伴い、患者を中心とした安全で良質な医療を提供するためには、医療・福祉に携わる専門職の連携や協働は不可欠である。チーム医療の推進、多職種連携・協働においては、生活者である対象の医療上の問題の解決を目標に、チーム医療の構成員として互いの専門性を理解し、各々の役割を果たすことが求められる。この授業においては、医療の流れと構成員、チーム医療とは何か、チーム医療に関する基本的考え方、チーム医療の実際、多職種連携と協働のスキル、各専門職の役割・機能等を学修する。また、病院内においては、入院患者を中心としたチーム医療・多職種連携のあり方について、地域医療においては、在宅ケアを受ける対象者を中心とした地域医療チーム・在宅ケアチーム・多職種連携のあり方について、看護師、医師、医療ソーシャルワーカーのそれぞれの立場から事例を活用しながら理解を深める。さらに、講義やグループワークを通して、患者・サービス利用者の生活の質を高めるための多職種連携のあり方と看護職の役割について考察する。 オムニパス形式

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 チーム医療・多職種連携の定義を述べることができる。				○	
2 各専門職の役割と活動について説明できる。				○	
3 多職種連携に影響する要因及び課題を列举できる。				○	
4 チーム医療・多職種連携を推進していくスキルについて説明できる。				○	
5 チーム医療を促進するための医療・福祉の専門職の連携・協働の必要性を述べることができる				○	
6 患者・利用者の生活の質を高めるためのチーム医療・多職種連携のあり方と看護職の役割について考察できる。					○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1. チーム医療・多職種連携とは 2. チーム医療・多職種連携が求められる背景とその重要性 3. 連携・協働するための方法 (情報の伝達・共有化、チームカンファレンス、事例検討、日常的な意見交換等) 4. 連携・協働のスキルとチームマネジメント 5. チーム医療・多職種連携における看護師の役割と機能	行田	予習(60分):各回の授業内容を確認のうえ、多職種連携について調べる。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	1. 看護師としての立場からのチーム医療・多職種連携の実際と課題 事例を用いての講義・GW	行田	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	1. 医師の専門性と関連法 2. 専門チームによる多職種連携のあり方 3. IPW・IPEとは 4. チーム医療・多職種連携における医師の役割と機能 5. 医療連携・地域連携の実際と課題	峯下	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	1. 医師としての立場からのチーム医療・多職種連携の実際と課題 事例を用いての講義・GW ＊課題:小レポート(A4) 学習のまとめ、感想等	峯下	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	1. 医療ソーシャルワーカーの専門性と関連法 2. チーム医療・多職種連携における社会福祉士の役割と機能 3. 地域での生活を支援する社会制度・社会資源 4. 医療連携・地域連携の実際と課題	宮川	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	1. 社会福祉士としての立場からのチーム医療・多職種連携の実際と課題 事例を用いての講義・GW ＊課題:小レポート(A4) 学習のまとめ、感想等	宮川	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	1. 多職種連携における看護師の役割と実際: 講義とグループワーク テーマ 「患者・利用者の生活の質を高めるためのチーム医療と多職種連携のあり方と看護職の役割について」	行田	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	1. グループワークの発表 2. まとめ チーム医療・多職種連携における課題と学生への期待 3. レポート課題	行田	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)			特になし。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			

【課題のフィードバック】 □ 講義終了後の「2回の小レポート・感想(3.4及び5.6)」は、講義の理解度を確認する。 □ 課題レポートは単元終了後、内容を確認する。
【成績の評価方法】 □ グループワーク(10%)、レポート(30%)、筆記試験(60%) 合計:100% □ グループワーク評価基準: 積極的に議論に参加している姿勢がみられる・相手の意見を否定せず聴く姿勢で臨んでいる・自分の意見、考えを相手にわかってもらえるように発言している・建設的な意見を述べている・目標達成に向けて努力している・発表時のプレゼンテーションはわかりやすい工夫がみられるなど、自己評価・他者評価を含めて評価する。 □ レポート評価基準: 適切な課題が設定されている・課題に沿った内容である・設定した問題の背景を説明している・既存の学説を踏まえたとうえで自分の考えを述べている・レポート形式で記載している・文章表現が適切である等。 □ 提出方法・提出〆切については授業時に提示する。期日を厳守すること。提出遅延時は減点対象とする。
【生成AI利活用（ 無 ）】
【ループリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 ・ 予習・復習を確実にに行い、授業を受けること。 ・ 各回でわからない言葉については予め調べて授業にのぞむ。 ・ 4年次の統合実習Ⅱに関連する科目であり、実習に活かせるよう、主体的に学修すること。

授業科目名	看護管理学	担当教員名	上谷いつ子			
コード	19NAD404	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					

【授業の概要】

国民の保健医療福祉に対するニーズの変化に伴い、看護サービスへの要求は多様化・複雑化しており、看護職への期待と役割は拡大している。この科目では、看護管理の概念と原則を学び、看護の対象となる人々に安全で良質な看護サービスを効率的・効果的に提供するために、看護職者個人および看護組織が担う役割は何かについて理解する。マネジメントの実際では、管理の対象として主に「ひと・もの・かね・情報・知識」を取り上げる。具体的には、組織運営、看護サービス提供システム(看護提供方式)、業務管理、人的資源管理(労務管理・人材育成含む)、施設設備・物品管理、情報管理、予算管理等について学修する。さらに、看護サービスの質保証のための質評価・改善・変革等について理解を深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護管理の定義とプロセスについて説明できる。				○	○
2 看護サービスを提供するための組織内のしくみについて説明できる。				○	○
3 看護チーム及び他職種との連携・協働における看護職の役割について説明できる。				○	○
4 キャリア開発の視点から個人と組織の関係について説明できる。				○	○
5 看護の質保証における評価の視点・方法を説明できる。				○	○
6 看護の経済的側面への関心をもつ必要性について説明できる。				○	○
7 組織における看護専門職および看護管理者の役割と責務について考察できる。				○	○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス 看護管理の定義とプロセス 1. 看護管理の定義 2. 看護管理学の概念構成と基本的要素 3. 看護におけるマネジメントの考え方と変遷 4. 看護マネジメントのプロセスとPDCAサイクル	上谷	【予習】(60分) : ①テキスト 第1章p2-15、第5章p144-145 を熟読し整理する。 ②p2-3の看護管理の定義についてそれぞれの共通点と相違点について整理する。 【復習】(60分) :授業内容を振り返り、整理する。 ①ナイチンゲールの「小管理」を読んで感想を整理する。 ②クラスルーム配信の確認テストに解答する。不明な個所はテキストや授業資料で確認する。 【課題1】(60分) 「実習の1日の行動と管理的視点」のワークシートに取り組む。提出は授業時に指示する。 *授業内容の確認テスト、リフレクションシートは、毎回授業終了後にGoogle Form で配信する。
2	看護ケアのマネジメント 1. 看護ケアのマネジメンと看護職の機能 2. 安全管理 3. チーム医療と多職種連携・協働 4. 看護業務のマネジメント ・看護ケアの標準化:看護基準・看護手順・クリティカルパス・情報の活用 ・日常業務のマネジメント:判断基準と多重課題への対応 ・研究成果の活用	上谷	【予習】(90分) : ① テキスト第2章p18-63 を熟読し整理する。 ② VISUALEARNクラウドにアクセスし、DVD 「よくある場面から学ぶ多重課題」を視聴し、課題に取り組む。 ③これまでの実習体験を想起し、看護ケアの優先順位の判断や時間管理で困ったりしたこと、うまくいったことなどを列挙し、その原因、理由について振り返る(ワークシート)。 【復習】(60分) :授業内容を振り返り、整理する。 ①患者の権利と尊重、意思決定支援、安全管理、チーム医療における看護職の役割について整理する。 ②看護ケアの標準化とは何か、標準化の必要性、標準化の具体例について整理する。 ③クラスルーム配信の確認テストに解答し、不明な個所は復習すること。
3	看護サービスのマネジメント ① 1. 看護サービスの定義と特徴 2. 組織としての目的達成のマネジメント ・組織理念の形成と浸透 ・現状分析による戦略的目標 3. 看護組織の構成と職務 ・組織構造と組織原則 ・看護の組織化	上谷	【予習】(60分) : ① テキスト第4章p80-88、第5章p145-150 を熟読し整理する。 ②実習体験を想起し、組織のなかで誰がどのような意思決定を行っているかについて整理する。 【復習】(60分) :授業内容を振り返り、整理する。 ①看護サービスの特徴について整理する ②病院組織における理念の形成と浸透の重要性、看護部門の位置づけと役割、職位と職務について整理する。 ③クラスルーム配信の確認テストに解答し、不明な個所は復習すること。
4	看護サービスのマネジメント ② 1. 看護サービス提供のしくみづくり ・看護単位の機能と特徴 ・看護サービスの提供方式 ～看護ケア提供システム 2. 人材(ヒト)のマネジメント ・人材フローのマネジメント ～人材の採用と育成・活用 ・労働環境の調整:看護師の働き方のマネジメント	上谷	【予習】(60分) : ① テキスト第4章p86-112 を熟読し整理する。 ② 日本看護協会公式ホームページにアクセスし(日本看護協会 で検索 https://www.nurse.or.jp/)、次の①②について調べておく。 ・重点政策・事業➡看護職の働き方改革の推進・看護職のキャリア構築支援 ・生涯学習支援の中で関心ある項目 【復習】(60分) :授業内容を振り返り、整理する。 ①看護ケア提供システムの定義、特徴、強み・弱みを整理し、どのようなシステムが理想的かについて自身の考えをまとめておく。 ②飯塚病院看護部にアクセスし、「セル看護提供方式」の動画を視聴し、感想を整理する。 ③看護管理者として、どのような人材を採用し、どのようにに育成していきたいか、自身の考えを整理する。 ④クラスルーム配信の確認テストに解答し、不明な個所は復習すること。
5	看護サービスのマネジメント ③ 1. ケア提供の環境・物品(モノ)・財的資源(カネ)・業務量・情報のマネジメント 2. 組織のリスクマネジメント 3. 医療・看護サービスの評価と改善	上谷	【予習】(60分) : ① テキスト第4章p112-141 を熟読し整理する。 ② 日本看護協会公式ホームページにアクセスし(日本看護協会 で検索 https://www.nurse.or.jp/)、DiNQL(ディンクル)事業についてリサーチする。 ・看護実践情報 ➡ 労働と看護の質向上のためのデータベース(DiNQL ディンクル)事業 ③臨床倫理、看護倫理、医療安全、医療・看護情報の管理、電子カルテの取り扱いについて復習しておく。 【復習】(60分) :授業内容を振り返り、整理する。 ①受持患者への看護の質は保証されていたかについて振り返る。 ② 看護ケアの質評価・改善システム公式ホームページにアクセスし(看護ケアの質評価・改善システムで 検索、http://www.nursing-qi.com/)、DVD1～4を視聴する。 ③クラスルーム配信の確認テストに解答し、不明な個所は復習すること。 【課題2】(90分) 「看護師の看護行為、看護業務における管理的視点」(課題用紙あり)に取り組む。提出〆切、提出様式については授業時に指示する。

6	マネジメントに必要な知識と技術 1. 看護職としてのセルフマネジメント 2. 人とかかわるスキル 3. 集団に働きかけるスキル ・リーダーシップとマネジメント ＊ワーク:「ついでにきたいリーダーとついでにきたくないリーダー」 ・組織の調整～組織文化・動機づけ・パワーとエンパワーメント・コンフリクト・変化と変革	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第3章p66-78、第5章p150-168を熟読し整理する。 ②日本看護協会HPにアクセスし、クリニカルリーダー、認定看護管理者について調べておく。 ③事前配信の「思い描くリーダー像」について記述する。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①チームリーダーや看護管理者に求められる能力について整理する。 ②実習体験を振り返り、チーム活動における自己の課題を整理する。 ③クラスルーム配信の確認テストに解答し、不明な個所は復習すること。
7	看護を取り巻く諸制度 1. 法律と看護管理 ～看護職がかかわる法制度 2. 看護の経済的側面 ・医療制度と診療報酬のしくみ ・看護サービスの対価 3. 看護制度と政策	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第6章p170-196を熟読し、看護管理に関連する法律、看護にかかわる医療・介護制度、診療報酬のしくみについて整理する。 ②テキスト第3章p69-70を熟読し、「新人看護職員の臨床実践能力の向上」に関連した厚生労働省の検討会について整理する。 ③厚生労働省の分野別政策一覧(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/index.html)にアクセスし、医療関連の政策について概観する。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①テキストp189の表6-8「看護サービスの対価の変遷」を読み、感想を整理する。 ②看護師が経営的視点を持つ意味について整理する。 ③テキストp193-194の表6-11「近年の看護制度等に関する検討会」を読み、政策過程における看護職による問題提起の重要性について整理する。 ④クラスルームから配信する確認テストに解答する。不明な個所はテキストや授業資料で確認する。
8	看護管理の実際 ～看護管理者、チームリーダーの体験学習に向けて～ 1. 看護管理職に求められるスキル 2. 事例から学ぶ看護管理 3. 看護師の業務調整の実際 グループディスカッション:多重課題～マルチタスクを乗り越えるために まとめ	上谷	【予習】(90分): ①事前配布の「事例に学ぶ看護管理～事例の中の看護管理の視点を考えよう」のワークシートに取り組む。 ②事前配布の多重課題の事例に取組み、優先順位と業務調整について整理しておく。 【復習】(60分): ①多重課題のワークからの学び、気づきを整理し、自己の課題をまとめる。 ②クラスルームから配信する確認テストに解答する。不明な個所はテキストや授業資料で確認する。 【課題3＝A・B】(180分) :授業進行に伴い提示した課題Aと課題Bについてまとめる。 課題A:チームリーダーとしてチームをどのように運営していくか、自身の考えを述べなさい。 課題B:看護師長であるあなたは、看護部長よりA病棟への異動を命じられた。 あなたはA病棟をどのように運営していきたいか、自身の考えを整理しなさい。
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）			VISUALEARNクラウドにアクセスし、DVD「よくある場面から学ぶ多重課題」を事前に視聴し、課題に取り組む。 日本看護協会HP、看護ケアの質評価・改善システムHP等にアクセスし、授業に臨む。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】 課題のフィードバックは、授業内で行う。 毎回の講義中もしくは終了後の確認テスト、リフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Classroomで個別もしくは全体にフィードバックする。			
【成績の評価方法】 筆記試験（70％）、レポート及び課題（30％）により総合評価する。 目標1～6 :目標に含まれる要素、キーワードについての知識の習得状況を筆記試験と課題で評価する。 目標7 :レポートと課題(授業中に提示)で評価する。			
【筆記試験】 :出題範囲・方法等については、授業時に示す。 【レポート評価(ルーブリック評価)】 ・評価項目:①適切なテーマ設定、②論理的構成力・考察力、③適切な文献引用・明示、④文章の推敲など、課題の内容によって評価項目を設定し評価する。 ・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。 ・盗用、剽窃行為は禁止。評価対象外とする。			
【生成AI利活用（ 無 ）】			
【ルーブリック評価の活用（ 有 ）】			
【履修申請上の条件】 統合実習を履修予定の学生を対象とする。			
【教科書】 上泉和子:系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践①看護管理，医学書院，最新版(2024年1月6日第11版1刷)。			
nen 日本看護協会編:看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2020，日本看護協会出版会。 岩崎 夏海著:もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら，新潮文庫。 ピーター・F・ドラッカー著:マネジメント[エッセンシャル版]－基本と原則，ダイヤモンド社，2001。 勝田裕美子:組織で生きる，管理と倫理のはざまで,医学書院。 近藤隆雄:サービスマネジメント入門―ものづくりから価値づくりの視点へ，生産性出版。 手島恵:主体性を高めチームを活性化する! 看護のためのポジティブ・マネジメント 第2版, 医学書院，2018。			
【オープンな教育リソース】 特になし			
【担当教員の実務経験】 看護師および看護管理者として臨床経験をもとに、実践例を示しながら看護管理の基礎を教授する。			
【オフィスアワー】 月・火・木 12-13時、16-18時 Gmailでの問合せ可能			
【教員連絡先】 iuetani@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】 看護管理は、より良い看護を提供するために、すべての看護職が身につけるべき知識・技術である。 良質な看護を提供するためにはどのようなシステムを創造していくのか、良質な人材の確保と育成・活用のあり方などについても考えていきたい。 なお、耳慣れない語句がでてくるので、丁寧に調べてノートに整理することを期待している。			

授業科目名	看護行政と看護の展望	担当教員名	高橋 恵			
コード	19NAD407	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					

【授業の概要】

変動する社会のニーズに適した質の高い看護を提供するために、歴史的・制度的観点を踏まえ、看護行政・政策活動の意義と役割を学ぶ。看護行政・政策とは何かを理解し、看護を実践する上で、看護行政・政策について学ぶことの重要性を理解する。また、我が国のこれまでの看護人材育成政策及び看護人材確保政策の経緯を学び、看護人材確保における現状と課題について理解する。変動する社会のニーズに適した質の高い看護を提供するうえでの政策的課題を発見し、考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 変動する社会のニーズと医療・看護への期待の変化について説明できる				○	○
2 看護活動の根拠となる法律とその内容を、看護師の実践内容と関連付けて説明できる。				○	○
3 看護に関わる政策・制度について、看護実践内容と関連付けて説明できる。				○	○
4 看護に関わる制度がつくられる仕組みについて説明できる。				○	○
5 政策に関与している組織、学術団体とその働きについて説明できる。				○	○
6 看護を実践する上で看護行政・政策について学ぶことの重要性について説明できる。				○	○
7 看護に関わる政策的課題と変革の時代に生きる看護の展望について考察できる。				○	○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1. コースガイダンス 2. 変動する社会のニーズと看護の役割 1) 医療・看護を取り巻く環境の変化 : 諸外国との比較から 2) 医療・看護への期待と役割	高橋	予習: (1)テキスト第1章(P2～14看護管理で学習している箇所)を読んで再学習しておくこと。 (2) 社会の変化が医療に与える影響について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)
2	3. 看護管理に関連する法律 1) 日本国憲法 2) 医療法 ① 医療法とは ② 医療法の目的 ③ 医療の基本理念	高橋	予習: (1)テキスト第6章(P181～193)を読んで整理しておくこと。 (2) 日本国憲法・医療法について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)
3	3. 看護管理に関連する法律 3) 保健師助産師看護師法 4) 看護に関連(関与)する法律 ① 医師法 ② 薬剤師法 5) 看護師等の人材確保の促進に関する法律	高橋	予習: (1)テキスト第6章(P166～P180)を読んで整理しておくこと。 (2) 保健師助産師看護師法・医師法・薬剤師法について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)
4	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 1) 社会保障制度改革の背景 2) 政策・制度と看護サービス ① 政策とは ② 政策形成と過程 ③ 我が国における医療制度のしくみ 3) 社会保障・税一体改革	高橋	予習: (1)テキスト第6章(P183～193)を再度読んでおくこと。 (2) 厚生労働省における政策について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)
5	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 4) 医療政策・介護政策とその経緯・医療制度改革の経緯 5) 健康政策 6) 看護政策と診療報酬 ① 看護政策とは ② 看護における診療報酬の評価: 看護配置・看護サービスの評価 ③ 診療報酬による政策誘導	高橋	予習: (1) 医療政策・介護政策について調べておくこと (2) 診療報酬について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)
6	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 7) 看護職員の量の確保と質の向上 ① 看護職員の需給の見通し ② 看護職員の復職支援の強化 ③ 特定行為に係る看護師の研修制度の導入 ④ 看護基礎教育に関する動向 レポート課題提示	高橋	予習: (1)テキスト看護関連資料(P204～208)を読んで整理しておくこと。 (2) 全国看護職員数について調べておくこと。 (60分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)
7	5. 看護と専門機関・職能団体 1) 世界保健機関(WHO) 2) 国際看護師教会(ICN)／国際助産師連盟(ICM) 3) 日本看護協会 6. 今後の看護の展望 : グループワーク	高橋	予習: (1)テキスト看護関連資料(P208～210)を読んで整理しておくこと。 (2) 今後の看護の展望について自己の考えをまとめて、次回のグループワークに備えておくこと。 (90分) 復習: 授業で配布する資料及びテキストを復習すること。 (60分)
8	6. 今後の看護の展望 : グループワーク 7. 発表 8. まとめ	高橋	予習: 前回のグループワークを通して自己の考えを整理しておくこと。(60分) 復習: グループワーク、まとめを振り返り、復習しておくこと。 (90分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義で行う。		
【成績の評価方法】		
・グループワーク(10%)、レポート(30%)、筆記試験(60%) 合計:100% ・グループワーク評価基準:積極的に議論に参加している姿勢がみられる・相手の意見を否定せず聴く姿勢で臨んでいる・自分の意見、考えを相手にわかってもらえるように発言している・建設的な意見を述べている・目標達成に向けて努力している・発表時のプレゼンテーションはわかりやすい工夫がみられるなど、自己評価・他者評価を含めて評価する。 ・レポート評価基準:適切な課題が設定されている・課題に沿った内容である・設定した問題の背景を説明している・既存の学説を踏まえたうえで自分の考えを述べている ・レポート形式で記載している・文章表現が適切である等を評価する。 ・提出方法・提出〆切については授業時に提示する。期日を厳守すること。提出遅延時は減点対象とする。		
【生成AI利活用（ 有 ）】		
【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】		
【履修申請上の条件】		
・予習・復習を確実に行之い、授業を受けること。		
【教科書】		
・上泉和子他編集:系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①, 医学書院2021. 第10版		
【参考書】		
・看護六法, 新日本法規, 最新版 ・手島恵他編集:看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル, 南江堂, 2015. ・吉田千文他編集:ナースィング・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理, メディカ出版, 2020.第4版 ・矢野正子編集:新体系 看護学全書<別巻>看護管理 看護研究 看護制度, メヂカルフレンド社.		
【オープンな教育リソース】		
特になし		
【担当教員の実務経験】		
看護師及び看護管理者としての約40年の臨床経験をもとに、実践例を示しながら看護行政の基礎、看護の今後の展望について教授する。		
【オフィスアワー】		
月曜日～金曜日 9時～17時 メールでの相談対応 出張中など当日対応できない場合は翌日対応する。その旨を説明しておく。		
【教員連絡先】		
教員勤務先のメールにて連絡。 E-mail:t.kei@marianna-u.ac.jp		
【備考】		
・各回でわからない言葉については予め調べて授業にのぞむこと。 ・授業は、講義とグループワークを組み込みながら進めていく。グループ活動を通して、自己の考えを表現すること、他者の意見を聴くこと、主体的に行動することなど、チーム活動をする上での基本的な能力を学ぶ機会になることを期待している。 ・看護専門職としての自覚と備えるべき姿勢、能力についても考える機会となることを期待している。		

授業科目名	看護論	担当教員名	上谷いつ子・山本君子・天野雅美・小濱優子・塚本都子 間中伴子・荻原康子・福永ひとみ・戸塚智美 専任教員			
コード	19NAD408	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					

【授業の概要】

先達者たちがこれまでに築き上げてきた多くの看護理論の中から、看護現場で活用されている理論（ニード論、セルフケア理論、適応理論など）をいくつか取りあげ、その理論の源泉や看護現象のとらえ方、人間観などの学びを深める。また、これまでの実習体験を経験として自己の中に価値づけていくために、理論と照らし合わせながら看護に対する考えを自分の言葉で表現し、自己の価値観を構築していく。

各領域の看護学については、基礎看護学領域をはじめ、それぞれの専門看護学領域における既習の知識についてあらためて学習し、専門職である看護師としての資格を得るために必要な知識・技術・態度について確認する。さらに、他大学(聖マリアンナ医科大学・昭和薬科大学)と合同の多職種連携セミナーの受講をととして、医療における多職種連携・協働およびチーム医療の意義について学び、多職種連携における各専門職の役割理解、チームワークおよび情報共有の重要性等について理解を深めるとともに、連携協働における看護職の役割について考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 自身の実習体験を看護理論と関連付けて考察できる。			○	○	
2 看護の理論を実践に応用することの意味について説明できる。			○	○	
3 各領域の看護の展開に必要な知識・技術・態度について述べるができる。			○	○	
4 医療における多職種連携協働およびチーム医療の意義について説明できる。				○	
5 多職種連携協働における看護職の役割について考察できる。				○	

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス 看護理論の理解と活用1・2 1. 看護理論の定義と説明概念 2. 看護理論の歴史的発展 3. 看護理論の学び方と実践への活用の意義 4. 代表的な看護理論(大理論・中範囲理論)	上谷	予習(5分): ①看護理論(大理論・中範囲理論)の認知度・関心度調査(Google Forms配信) 復習(20分): ①授業内容を振り返り、整理する。 ②確認テストに取り組む(Google FormsをGoogle Classroomより配信)。 ③授業終了後にリフレクションシートを提出する(Google Classroomより配信)。
3	看護理論の理解と活用3・4 1. 看護理論の理解:看護理論の認知度調査結果より 2. 臨床における経験学習 認識論と概念化・経験学習サイクル・暗黙知と形式知 3. 演習「My Theory ～可視化しよう！私の看護」 ワークシートを用いて自身の実習体験を整理し、看護の経験知を表現する。 個人ワーク・ペアワークによる学び・気づきを言語化する。	上谷	予習(20分) ①実習体験の中から一事例を想起しておく。 復習(20分) ①グループワークでの気づきを整理する。 ②所定のワークシートにもとづいて整理し、レポート課題につなげる。 ③授業終了後にリフレクションシートを提出する(Google Classroomより配信)。 【レポート課題】(60分) テーマ:自己の実習体験の意味づけ「私が大切にしている看護とは」 提出様式、ページについては、授業時提示する(Google Classroom)
5	多職種連携教育(IPE) 1. ガイダンス 【詳細は実施要項参照】 <u>日程未定</u> 1)多職種連携セミナー実施要項の説明 2)課題解決型演習PBLの課題提示:シナリオの説明と事前学習について 2. 多職種連携セミナー(9/14) * 聖マリアンナ医科大学、昭和薬科大学、東京純心大学の3大学合同セミナー 1)3職種混合のグループ編成 2)アイスブレーキング(9/9) 3)課題解決型演習(PBL) グループディスカッション・発表準備・発表(9/14) ・事前学習のシナリオをもとに、課題を抽出し、互いに意見を出し合い議論する	山本 上谷 専任教員	予習(30分) ・ガイダンス後に課題に取り組む ・「多職種連携セミナー 実施要項 」を熟読し、セミナー当日のディスカッションを効果的に行うための準備を行う。 ①シナリオをもとに、疾患、病態生理、検査、治療(特に薬剤)、看護について整理する。 ②シナリオを熟読し課題及び課題解決について自分の考えを整理しておく。 復習(10分) ①ワーク全体を振り返り、2つ(3大学と本学)のアンケート(Google Form)を記入する 【レポート課題】(60分) テーマ「多職種連携・協働における看護職の役割について自己の考えを述べなさい」 書式A4用紙、MS明朝体、フォント10.5pt、文字数1000字以内
6	る ・合意形成のプロセスを丁寧にふみながら、チームで課題解決に取り組む		
7	看護の理論と実践① 看護の基礎における実践理論	専任教員	予習(20分):専門基礎領域の知識を再学習し、整理しておく。 復習(30分):授業内容を整理する。
8	看護の理論と実践② 基礎看護学領域における看護の実践理論	天野	予習(20分):基礎看護学領域の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(30分):授業内容を整理する。
9	看護の理論と実践③-1 成人看護学領域における看護の実践理論	小濱	予習(20分):成人看護学領域(急性期)の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(30分):授業内容を整理する。
10	看護の理論と実践③-2 成人看護学領域における看護の実践理論	小濱	予習(20分):成人看護学領域(慢性期)の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(30分):授業内容を整理する。
11	看護の理論と実践④ 老年看護学領域における看護の実践理論	塚本	予習(20分):老年看護学の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(30分):授業内容を整理する。
12	看護の理論と実践⑤ 母性看護学領域における看護の実践理論	間中	予習(20分):母性看護学領域の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(30分):授業内容を整理する。
13	看護の理論と実践⑥ 小児看護学領域における看護の実践理論	荻原	予習(20分)小児看護学の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(30分):授業内容を整理する。

14	看護の理論と実践⑦ 精神看護学領域における看護の実践理論	福永	予習(20分):精神看護学の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(30分):授業内容を整理する。	
15	看護の理論と実践⑧ 在宅看護学領域における看護の実践理論	戸塚	予習(20分):在宅看護学の看護の知識を再学習し、整理しておく。 復習(30分):授業内容を整理する。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）			○	・多職種連携セミナー ①聖マリアンナ医科大学、昭和薬科大学、東京純心大学の3大学合同セミナーを開催する。 ②医師、薬剤師、看護師の専門職として連携協働のプロセスを体験する ③シナリオを事前に配布し、課題解決について自身の考えを整理し、セミナーに臨む。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）				
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題のフィードバックは、授業内で行う。 毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Classroomで個別もしくは全体にフィードバックする。				
【成績の評価方法】				
目標1・2・・・レポート評価 5% 目標3・・・筆記試験 90% 目標4・5・・・レポート評価 5% 合計 100%				
【レポート評価基準(ルーブリック評価)】 ・評価項目:①適切なテーマの設定、②課題に対する記述、③論理的構成・内容の一貫性、④文献の引用による考察の深まり・文献の明示、⑤文章の体裁・適切な表現(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等) ・提出期日を厳守する。提出遅延時は減点対象とする。 ・盗用、剽窃行為は禁止する。				
【筆記試験】 ・各領域から出題する。出題範囲・問題数等については授業時に示す。				
【生成AI利活用（ 無 ）】				
【ルーブリック評価の活用（ 有 ）】				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】				
・適宜、資料を配布する。				
【参考書】				
1. 黒田裕子監修:ケースを通してやさしく学ぶ看護理論, 日総研, 2012. 2. 黒田裕子監修:看護診断のためのよくわかる中範囲理論、学研、2014 3. 野川道子編著:看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド社、2014. 4. F. ナイチンゲール、湯愼ます他訳:看護覚え書ー看護であること・ないこと、現代社. 5. ヘンダーソン著、湯愼ます・小玉香津子訳:看護の基本となるもの、日本看護協会出版. 6. 陣田泰子:看護現場学の方法と成果ーいのちの学びのマネジメント, 医学書院, 2009. 7. 細田満和子:チーム医療」とは何かー医療ケアに生かす社会学からのアプローチ, 日本看護協会出版会 , 2012. 8. 篠田道子著:多職種連携を高める チームマネジメントの知識とスキル , 医学書院, 2011. 9. 寺崎文生監修:実践 多職種連携教育, 中外医学社, 2020. 10. エイミー・C・エドモンドソン (著), Amy C. Edmondson (著), 野津 智子 (翻訳) :チームが機能するとはどういうことか——「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ, 2014. その他、各専門領域のテキスト類				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
看護師として臨床経験がある教員が、看護理論の知識や実践への活用、および各領域の看護実践の知識、技術について教授する。 また、医師、薬剤師、看護師の専門職としてチーム医療、多職種連携協働の経験がある教員が多職種連携セミナーでのファシリテーターとして指導する。				
【オフィスアワー】				
月・火・木 12-13時、16-18時 Gmailでの問合せ可能				
【教員連絡先】				
iuetani@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
実践と理論の統合の意味について考え、看護実践に看護理論を活用していくための方法論を身につける機会となることを期待する。 また、看護専門職として基礎となる看護学全般の知識の獲得状況を確認する機会としたい。 多職種連携セミナーは、今年度からあらたに始まったプログラムである。 医師、薬剤師を目指している学生とともにディスカッションする体験を通して、看護職としての将来像を描く機会となることを期待している。				

授業科目名	看護教育論	担当教員名	上谷いつ子			
コード	19NAD409	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					

【授業の概要】

わが国における看護教育制度および看護継続教育の変遷と現状、及び法的基盤について理解する。また、諸外国の看護教育制度との比較から、現在の日本における看護教育制度の特徴と課題についてディスカッションを通して理解を深め、社会から求められている看護学教育について考察する。看護学教育や継続教育に応用できる学習理論・学習方法について体験的に理解を深めるとともに、基礎教育課程での学びを踏まえ、自身の看護実践能力を高めていくために必要な自己研鑽力について検討する。さらに、これまで受けてきた講義や演習、実習での体験を振り返り、教育や指導についての自身の考えを再認識し、看護専門職として看護教育学を学ぶ意義、キャリア開発と今後の展望について考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	看護教育学を学ぶ意義について説明できる。					○
2	日本における看護教育制度の特徴と課題について説明できる。					○
3	看護継続教育の現状と課題について説明できる					○
4	学習の基礎理論を踏まえ、自身の学習経験を振り返り教育・指導に対する考えを表現できる					○
5	看護専門職として生涯学習の意義とキャリア開発の展望について考察できる。				○	○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス 看護教育学を学ぶ意義 1. いま・これからの看護師に求められること 2. 看護教育学とは 3. 生涯学習社会を生きる～生涯にわたって学習する意味は何か 4. 「学ぶこと」から「教えること」への変化 ～教える準備にとりかかる！ リフレクション 「指導者・教員との出会い」	上谷	予習(60分) ①授業内容に関して、参考図書・文献等を参照し整理しておく。 ②将来どのような場面で教えることになるのか具体的にイメージして整理しておく。 復習(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②看護専門職として生涯学習が重要な理由、学び続けることの意味について、自分の考えを整理する。 ③授業中のワークシートを整理する。 * <u>毎回の講義終了後は、Google Formでリフレクションシートの記入、随時課題配信・課題は授業時持参のこと</u> 【レポート課題1】(90分)「看護基礎教育検討会 報告書」を読み、レポートする。 ① https://www.nurse.or.jp/nursing/4th_year/index.html ➡② https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_07297.html
2	看護教育制度① 1. 日本の看護教育制度の変遷 ・初期・戦時中・戦後～近代・近代～現代 2. 看護基礎教育の現状と課題 ・看護基礎教育カリキュラムの改正と教育内容の変化 ・多様な看護教育機関 ・准看護師制度 ・経済連携協定EPAを介した外国人看護師の受入れ	上谷	予習(60分) ①日本の看護教育の歴史と課題について調べ、整理する。 ②日本看護協会のHPにアクセスし、「准看護師制度の課題解決に向けた取り組み」について整理する。 (https://www.nurse.or.jp/nursing/kango_seido/) ➡ https://www.nurse.or.jp/aim/jyunkan/index.html) 復習(60分) ①授業内容を振り返り、内容を整理する。 ③准看護師制度について授業で考えたことをもとに、文献等を調べ自分の意見をまとめる。
3	看護教育制度② 諸外国の看護教育制度の比較検討 グループワーク・発表 日本の看護教育制度の課題と今後の展望	上谷	予習(60分) ①配布した資料を参考に複数の諸外国の看護教育制度の特徴について整理する(ワークシート)。 ②日本の看護教育制度と比較し、相違点を整理する。 ③「諸外国と比較した場合、日本の看護教育制度の課題」と「諸外国で働く際の資格取得」について整理し、グループワークに臨む。 復習(60分) ①ワークシートにグループワークの内容を整理する。 ②日本における看護教育制度の課題から今後の展望(望ましい姿)についてレポートする。 【レポート課題2】(90分) 日本看護協会における准看護師制度の課題解決に向けた取り組みについてレポートし、最後に感想を述べなさい。提出については授業時に提示する。
4	看護継続教育 1. 看護専門職への道 ・専門職の要件と法的整備 ・新人看護師の 2. 看護継続教育の定義と範囲 3. 臨床における継続教育の実際 ～新人看護師の成長への支援を中心に ・OJTで新人看護師の成長を支援する	上谷	予習(60分): ①日本看護協会の公式HP(https://www.nurse.or.jp/)にアクセスし、「生涯学習支援 ⇒看護師の臨床カルラダー、新人看護職研修、継続教育の基準Ver.2、特定行為研修、認定看護師教育等」について調べ整理しておく。 ②事前配布の事例「新人看護師と先輩との関わり」を読み、何が課題か、またどのように関わるとよいかを検討する。 復習(60分): ①授業内容を振り返り、新人時代をどのように乗り越え成長していくかについて自身の考えを整理する。 ②新人指導のあり方について、自分の考えを整理する。
5	看護師の学習にいかす基礎理論 1. 学習理論の変遷 2. 学習の原理の活用 ・学習目標の設定:目標の分類体系 Taxonomy ワーク「目標の分離」 ・学習方法と選択のポイント ・教育評価の目的と方法	上谷	予習(60分): ①参考図書や文献等の中から、授業内容について調べ、まとめておく。 復習(60分): ①授業内容を振り返り、学習の原理、学習目標の設定、評価についてまとめる。

6	臨床に生かす指導方法 1 1. 学習意欲を高める技法 ～動機づけとコーチングの技法 ・アイスブレイク ・動機づけと学習意欲 ・学習支援のスキルと方法 :コーチング基本スキルとアプローチ 2. ディスカッションの技法 ～協同学習 ・協同学習の進め方・ルール・技法	上谷	予習 (60分): ①参考図書や文献等を参照し、動機づけ理論、コーチング、ディスカッションの技法等について、整理しておく。 ②事前配布の事例を読み、後輩へのかかわり方について自身の考えを整理する(ワークシート)。 復習 (60分): ①事前配布の事例について、コーチングの基本スキルとアプローチを用いてどのようにかかわると良いのか整理する(ワークシート提出)。 ②授業内容を振り返り、後輩指導や実習指導などの指導場面で、どのようにかかわっていきたいか、自身の考えを整理する。	
7	臨床に生かす指導方法 2 合意形成の体験学習 ～コンセンサスゲーム	上谷	予習 (60分): ①多職種連携における合意形成(コンセンサス)の重要性について整理しておく。 ②北海道大学オープンコースウェア https://ocw.hokudai.ac.jp/?s=field06 にアクセスし、スタディスキル自習用補助教材の「プレゼンテーションの“技法”基礎編(6分)」の視聴しておく。 復習 (60分): ①コンセンサスゲームの体験学習を振り返り、ディスカッションにおける参加状況や気づき・学びについて整理する(ワークブック)。	
8	看護師の学習とキャリア開発 1. 成人学習と経験学習 ～看護師の学習の特徴～ 2. 看護師のキャリア発達とキャリア開発 ・キャリアアンカーと3つの問い ・キャリアデザインを描くことの意味を考える まとめ 最終レポート課題について	上谷	予習 (60分): ①参考図書・文献等を参照し、成人学習、経験学習、キャリア発達、キャリア開発について調べ、まとめておく。 復習 (90分): ①授業内容を振り返り、看護専門職者としてどのようなキャリアを積んでいきたいかを整理し、キャリアデザインを描くことの意義について、考えを整理する。 【最終レポート課題】(180分) 「私の指導観・教育観」 ・課題の具体的な内容、提出方法・期限、評価については授業時に提示する。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)				日本看護協会のHPにアクセスし、「准看護師制度の課題解決に向けた取り組み」について整理する。 https://www.nurse.or.jp/nursing/kango_seido/ https://www.nurse.or.jp/aim/jyunkan/index.html 北海道大学オープンコースウェア https://ocw.hokudai.ac.jp/?s=field06
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション				
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
課題のフィードバックは、授業内で行う。 毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Crass Roomで個別もしくは全体にフィードバックする。				
【成績の評価方法】				
レポート(70%)、提出課題とGW参加状況(30%)で、総合的に評価する。 目標1、2、3 …… 事前課題と授業後のレポートによる評価 目標4、5 …… レポートによる評価(ルーブリック)				
【レポート評価基準(ルーブリック)】				
・評価項目:①適切なサブテーマの設定、②課題の記述・内容の一貫性、③論理的な構成、④自己の経験の記述と意味づけ、⑤文献引用による考察と文献の明示、⑥文章の体裁・適切な表現(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等) ・提出期日の厳守する。提出遅延時は減点対象とする。 ・盗用、剽窃行為は禁止する。				
【生成AI利活用 (無)】				
【 ルーブリック評価の活用 (有)】				
【履修申請上の条件】				
これまで学んだ専門領域看護の知識、領域実習での患者・家族指導の経験などを想起しながら、講義に臨むこと。				
【教科書】				
特に指定しない。講義時に資料を配布する。				
【参考書】				
グレッグ美鈴,池西悦子編集,看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う,改訂第2版,南江堂,2019。 杉森みど里ほか:看護教育学第6版, 医学書院, 2017。 中井俊樹ほか:看護のための教育学, 医学書院, 2017。 中井俊樹編著:看護現場で使える教育学の理論と技法, メディカ出版, 2017。 エドガーH.シャイン著、金井嘉宏訳:キャリア・アンカー, 自分のほんとうの価値を発見しよう, 白桃書房, 2012。 パトリシア・ベナー著、井部俊子監訳:ベナーの看護論新訳版, 初心者から達人へ, 医学書院, 2012。 勝原裕美子:看護師のキャリア論, ライフサポート社, 2012。 吉田みつ子:看護技術－ナラティヴが教えてくれたこと, 医学書院, 2014。 青木将幸:リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト50, ほんの森出版, 2015。 三浦真琴:グループワークその達人への道, 医学書院, 2018。				
【オープンな教育リソース】				
北海道大学オープンコースウェア https://ocw.hokudai.ac.jp/?s=field06 にアクセスし、スタディスキル自習用補助教材の「プレゼンテーションの“技法”基礎編(6分)」の視聴				
【担当教員の実務経験】				
看護師としての臨床経験のある教員が担当する。臨床現場の患者指導、看護師の現任教育の具体例を示しながら、実践的な視点で教授する。				
【オフィスアワー】				
月・火・木 12-13時、16-18時 Gmailでの問合せ可能				
【教員連絡先】				
iuetani@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
授業では、これまで受けてきた看護基礎教育を想起し、ブレインストーミングを多く取り入れるので、積極的に参加することを期待する。 また、看護の専門職を目指すものとして、卒業を前にあらためて看護と教育の意味を問い直すとともに、看護実践能力の向上のための経験学習からの学び方を理解し、卒業後に役立てていけることを期待している。				

授業科目名	看護技術フォローアップ演習	担当教員名	天野 雅美 ・ 間中 伴子 ・ 荻原 康子 ・ 小濱 優子 塚本 都子 ・ 戸塚 智美 ・ 福永 ひとみ			
コード	19NAD410	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					

【授業の概要】

既習科目である基礎看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、在宅看護学、精神看護学の7つの専門領域で学修した知識・技術・態度を統合し、看護の対象に合わせて、科学的根拠に基づいた適切な看護援助を計画、実践できる能力の確認を通して、卒業後の臨床への適応をスムーズにするための技術演習である。具体的には、グループ毎に演習の到達目標を理解し、対象事例の背景を明確にし、指定された時間内で看護援助の課題に取り組む。事例に合わせて、患者や看護者、医師や家族役を担当し、協力して実施する。課題の実施後は、グループあるいはクラス全体で振り返り、実施できた点やより良い方法を挙げ、繰り返し実施する。特に、うまくいかなかった点は、知識なのか、技術なのか、態度なのかを明確にし、次回の取り組みへ活用できるよう具体的に修正する。7領域の看護技術演習を通して、看護実践力の達成度の振り返りである自己評価を行うと共に他者評価を受けて、抽出された課題を卒業後の学びの指標とする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護援助を実施するにあたり、必要な学修課題を述べることができる。		○			
2 事例に基づいて対象の状況をアセスメントし、科学的根拠に基づいた必要な援助計画を立てることができる。		○	○	○	
3 2について、安全安楽に実施し、援助ニーズを満たすことに繋がったか評価することができる。		○	○	○	
4 実施した援助を適切に評価し、自己の課題を説明することができる。		○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【授業ガイダンス】:天野 1)演習の進め方、2)課題の提示、3)レポートの提出	天野	予習(25分):看護技術の原理原則と一般的な方法について復習する 復習(20分):看護技術の到達度を振り返ってくる 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	成人看護学技術演習1(課題解決型学修) (担当:成人看護学教員)	小濱他	予習(各25分):提示された課題を理解する 復習(各20分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	成人看護学技術演習2(グループワーク) (担当:成人看護学教員)	小濱他	
4	基礎看護学技術演習1(課題解決型学修) (担当:基礎看護学教員)	天野他	予習(各25分):提示された課題を理解する 復習(各20分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	基礎看護学技術演習2(グループワーク) (担当:基礎看護学教員)	天野他	
6	母性看護学技術演習1(課題解決型学修) (担当:母性看護学教員)	間中他	予習(各25分):提示された課題を理解する 復習(各20分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	母性看護学技術演習2(グループワーク) (担当:母性看護学教員)	間中他	
8	小児看護学技術演習1(課題解決型学修) (担当:小児看護学教員)	荻原他	予習(各25分):提示された課題を理解する 復習(各20分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	小児看護学技術演習2(グループワーク) (担当:小児看護学教員)	荻原他	
10	老年看護学技術演習1(課題解決型学修) (担当:老年看護学教員)	塚本他	予習(各25分):提示された課題を理解する 復習(各20分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	老年看護学技術演習2(グループワーク) (担当:老年看護学教員)	塚本他	
12	在宅看護学技術演習1(課題解決型学修) (担当:在宅看護学教員)	戸塚智他	予習(各25分):提示された課題を理解する 復習(各20分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
13	在宅看護学技術演習2(グループワーク) (担当:在宅看護学教員)	戸塚智他	
14	精神看護学技術演習1(課題解決型学修) (担当:精神看護学教員)	福永他	予習(各25分):提示された課題を理解する 復習(各20分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	精神看護学技術演習2(グループワーク) 【授業評価アンケート】	福永他	

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	・必要時、動画の活用をする。 ・授業担当教員により、Google classroomを用いて授業資料の配信やformsを用いたリフレクションシートの配信などをする。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		
【課題のフィードバック】		
・課題レポートに対するフィードバックは、演習の際に行う。		
【成績の評価方法】		
1. 領域ごとの評価:84％(12点×7領域＝84点) 2. 看護技術演習に関するレポート:16％(16点) 合計:100％		
【生成AI利活用（ 無 ）】		
【ループリック評価の活用（ 有 ）】		
【履修申請上の条件】		
・統合実習の単位を取得見込みが望ましい		
【教科書】		
・既習科目の全てのテキスト・授業等で配布された資料を活用すること		
【参考書】		
・各領域より、適宜紹介する。		
【オープンな教育リソース】		
・必要時、各専門領域の授業担当者より提示する。		
【担当教員の実務経験】		
・看護師あるいは保健師もしくは助産師の資格を有し、臨床経験や看護教育経験がある。		
【オフィスアワー】		
・天野 B棟3428-1研究室、平日12:10-13:00。各担当教員のオフィスアワーは、別途説明する。		
【教員連絡先】		
・天野:mamano@g.t-junshin.ac.jp、各担当教員の連絡方法は、随時、説明する。		
【備考】		
・科学的な根拠に基づく援助を確実に実施することを期待する。基礎看護技術の修練を自ら行い、自己評価・他者評価を学生や教員から適宜受ける、など自分で積極的に学修をすすめること。 自ら求めることで修得する内容も深まる。		

看護学部			2024(令和6)年度							
授業科目名	統合実習	担当教員名	山本 君子・全領域専任教員							
コード	19NAD414	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択					
			○							
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／90時間／実習							
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】									
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。									
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。									
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。									
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。									
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。									
【授業の概要】										
これまでの学習や経験を踏まえ、看護場面における自らの課題を達成するために適切な実習施設を選択し実習する。知識、経験、技術などを統合させながら主体的に取り組み、より質の高い看護を提供するための方法を体験的に学修する。また、医療・福祉施設等において、安全で良質な看護サービスを効率的・効果的に提供するための看護管理の実際、保健・医療・福祉チームの一員としての看護職の役割等を体験的に学修する。さらに、これまでの気づきや学びを通して構築してきた看護観を表現し、看護専門職としての自己のあり方を考察する。										
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー			
						①	②	③	④	⑤
1 探究したい自己の課題を明らかにし、課題解決に向けて主体的に計画的に取り組むことができる。									○	
2 看護の対象の状態や変化に応じ、看護の優先順位や時間配分、継続性等を考慮して計画し、実践できる。									○	
3 安全・安楽・倫理的視点に根ざした科学的根拠のある看護を継続的に実践できる。							○		○	
4 自己の看護実践および自己の課題解決について適正に評価できる。							○		○	
5 既習の知識・技術を用いて、主体的に学修し、かつ看護学生として責任ある言動をとれる。							○		○	
6 看護専門職としての自己のあり方を考察し、看護に対する自己の考えを表現できる。							○		○	○
【授業計画】										
	授業計画				担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
	統合実習Ⅰは、学生が探究したい課題に沿って1つの看護学領域を選んで履修する。詳細は、「統合実習ⅠⅡ 実習要項」を参照 1. 実習期間 :2024年7月1日～7月12日 2週間90時間 2. 実習場所 :選択した領域により実習施設は異なる。 3. 実習方法 :選択した領域により実習方法は異なる。共通事項について以下に記載 1) 担当教員の指導を受けながら自己課題に応じて実習計画を修正する。 2) 実習計画に基づき課題解決に取り組む。 3) 複数の対象者を受け持ち、看護援助を行う。 4) 看護チームの一員として継続看護を展開するため、早朝や夜間など可能な範囲で実習時間を変更する。 5) 助言を受けながら、チームの一員として看護の実践、評価を体験する。 6) 実習全体を振り返り、自己の課題解決について評価する。 7) 看護実践を振り返り、学びをまとめ共有する。 8) 学内実習の日程・方法については領域により異なる。 4. リフレクション 1) 自己評価に基づいた評価面接 2) 担当教員の指導を受けながら、記録の整理を行い、実習ファイルを指定された日時までに提出する。				山本 伊藤 各領域教員	予習・復習 【実習前】(60分) 1. 実習要項を熟読する。 2. 事前課題に取り組む。 1)これまでの体験した看護を所定の用紙を用いて整理する。 2) 自己の学修課題に応じ事前に文献等を検索し、課題達成のための取り組みについて検討し、担当教員の指導を受けながら事前レポートとして整理する。 3) 事前課題を期限内に提出する。 【実習 毎回各予習30分 各復習30分】 日々の実習の事前課題・事後課題・看護過程展開の整理を行う(2時間/日) 1. 事前課題で立案した実習目標、実習計画に沿って行動計画を立て実習に臨む。 2. 安全で確実な看護援助を行うために、日々の事前学習・準備を行う 3. チームカンファレンス等で受持患者の看護について発言できるように準備しておく。 4. 主体的なカンファレンス運営と学びの共有ができるように準備する。 5. 日勤以外の勤務帯(早出・遅出、夜勤帯等)の業務内容を事前に把握し、実習計画を立案しておく。 6. 日々の実習を振り返り、課題達成状況を評価し、必要時修正する。 7. 日々の実習を振り返り、文献等を活用して実習に臨むよう、適宜準備する。 8. 2週間の実習を振り返り、自己の課題達成状況を評価し、統合実習Ⅱに臨む。 9. 統合実習Ⅰでの学びを定められた様式に沿ってレポートする。課題のテーマは実習要項を確認すること。 提出〆切は担当教員に確認する。				
【アクティ					チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)					○	領域によりアクティブラーニングの手法は異なる。詳細は各領域の実習要項を参照。 DVD活用				
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)										
③:ディスカッション・ディベート					○					
④:グループワーク					○					
⑤:プレゼンテーション					○					
⑥:実習・フィールドワーク					○					
【課題のフィードバック】										
実習中の課題へのフィードバックは、実習の進行状況を確認しながら、当日もしくは翌日までに行う。個別指導やカンファレンス等でフィードバックする。										
【成績の評価方法】										
1. 評価の条件:2週間の実習を通し、5分の4以上の出席をもって評価する。実習記録、レポート等の評価対象の記録類は、提出期限を厳守すること。 2. 学生は、第2週目に実習評価表をもとに実習目標達成状況を振り返り評価する。 3. 総合評価: 1)実習目標の到達度を実習評価表に沿って評価する。実習内容・態度、カンファレンス参加度、実習記録(80点)、実習終了後のレポート(20点)により総合的に評価する。 2)評価面接: ・担当教員と評価面接を行う。 ・学生は、事前に実習評価表の評価基準に沿って自己評価し、記録類とともに提出する。 3)レポート課題:「自己の課題の達成状況を評価し、文献的考察を踏まえ自己の看護に対する考えを述べなさい。」 4)評価基準 【実習評価の評価基準】 基準:目標の達成状況として5段階で評価を行う。 S:90%以上 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 【レポート評価基準】: ①課題に沿ったタイトルが設定されている、②内容に一貫性があり、論理的にわかりやすく表現されている、③設定した問題の背景を説明している(体験に基づいた内容である)、④考察が文献の引用等により深められている、⑤文章の体裁・表現は適切である(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)、の5項目について評価する。 なお、剽窃行為は禁止されているので注意する。										
【生成AI利活用(無)】										
【ルーブリック評価:(有)】										
【履修申請上の条件】										
この科目の先修条件は、すべての看護専門領域実習を履修し、かつ、単位を取得していることである。 看護専門領域実習の履修においては、必ず履修できるように、それぞれの実習の先修条件を確認しておく。										
【教科書】										
特に指定はない。										

【参考書】
これまで履修した科目で、講義・演習・実習等で使用したテキストや資料、文献等
【オープンな教育リソース】
特になし
【担当教員の実務経験】
看護師として臨床経験のある教員が、疾患や生涯が対象の日常生活に及ぼす影響を身体的・精神的・社会的な側面から看護実践について総合的に指導する。
【オフィスアワー】
火曜日　12:10～13:00
【教員連絡先】
k_yamamoto@g.t-junshin.ac.jp
【備考】
・4年間の集大成の実習である。能動的な学修に努め、自律的に臨床指導者および教員等に報告・連絡・相談を行う。また、自己の看護実践の振返りを適宜行い、安全で確実な看護実践ができるように、主体的に学修を進めること、文献検索を適宜行い、自身の看護実践の根拠性を高める努力を行うことを期待する。 ・看護学を学ぶものとして、実習全体を通して自己を真摯に振り返り、自己の課題を見出していくことを期待する。さらに、生涯学習者である看護専門職者になっていくものとして、自己の看護観の構築に積極的に取り組み、看護を探究する姿勢を身につけていくことを期待している。

授業科目名	看護研究Ⅰ	担当教員名	渡辺羊子、専任教員			
コード	19NAD416	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次後期～4年次／通年	単位／時間数／形態	4単位／120時間／演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					

【授業の概要】
履修してきた、「看護研究方法」の看護研究の基礎的な知識、技術が前提となる。2年次では、講義・演習、論文の探し方、論文の読み方、4年生の看護研究Ⅰの発表会への参画等行う。3年次は、講義・演習の他に、論文の読み方、論文のクリティークを中心に行い、4年次の本格的な看護研究の基礎固めとする。4年次は、これまでの講義・演習・実習の学びから、自己の研究疑問(Research Question)に基づいた研究テーマと目的を明確にする。それを真摯に探究することを通じて、研究手法を学修し、研究的思考を養う。所属ゼミの学修方法・ルールに従って自主的、自律的に学修する。研究計画書の作成と看護研究計画書の発表を行うことで、看護研究1の授業とする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護における研究課題とその意義を明確にし、文章化することができる。					○
2 文献検索を行い、研究課題に関係する適切な論文をクリティークし、文献検討としてまとめることができる。					○
3 研究を実施するために必要な倫理的配慮について説明できる。		○			○
4 研究目的を達成するためにふさわしい方法を選択し、実現可能な計画を作成することができる。		○			○
5 看護研究が人々の健康にもたらす貢献について考察し記述できる。					○

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	看護研究方法を履修し、看護研究の基礎的な知識、技術を修得したことが前提となる。 次のステップとして、ゼミとして120時間をかけて、研究計画書を作成することがこの科目の学習課題である。 講義・実習などこれまでに学習したことを踏まえ、看護学生の視点から自己のテーマと目的をもち、研究的思考や手法を身につける。4年間の集大成として、看護研究の講義で学んだ研究プロセスを、個々の課題にそって進め、研究計画書までの作成を行う。 学生の興味関心の深い領域での研究を行えるよう、助手を除く全教員が3～4名の学生を担当して指導する。助教は、専門分野の教授もしくは准教授の助言を受けつつ学生指導を行う。 研究領域の決定後、担当教員の下で、研究をすすめる。 【2年次後期】講義・演習 論文の探し方、論文の読み方、4年次生の看護研究Ⅰ発表会への参画等 5コマ 10時間(2022年2年次済) 【3年次前期】講義・演習 論文の読み方、論文のクリティーク 、看護研究方法の復習 ＊ 3年次配当時間 5コマ 10時間(2023年3年次済) 【4年次通年】ゼミナール 研究テーマの決定、テーマに関する文献検索、文献を読み、文献レビュー ＊ 4年次配当時間 50コマ 100時間 合計60コマ120時間	4年次 担当ゼミ教員	担当の教員から出された課題を次回ゼミまでに行い、進捗状況の報告後にフィードバックを受け、次の課題に取り組む。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	4年次、看護研究計画書の発表会を行う。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】
4年次、看護研究計画書の発表会を行う。

【成績の評価方法】
ゼミ担当教員が評価表に基づいて評価する。

【生成AI利活用（ 無 ）】
【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】

【履修申請上の条件】
看護研究方法の履修

【教科書】
・黒田裕子 看護研究 Step by Step 第5版 医学書院 2017

【参考書】

・南裕子 看護における研究 日本看護協会出版会 2017
・D.F.ポーリット／C.T.ベック著、近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法(第2版)2010 医学書院
・ナースングラフィカ 基礎看護学④看護研究 MCメディカ出版 2023
・早川和生 JJN SPECIAL 看護研究の進め方論文の書き方 第2版 2014
・横山美江編著 よくわかる看護研究・まとめ方 第3版 医歯薬出版 2017
・筒井真優美編著 アクションリサーチ入門 ライフサポート社 2010
・石井京子・多尾清子 ナースのための質問紙調査とデータ分析 第2版 医学書院 2002
他 適宜紹介

【オープンな教育リソース】
特になし

【担当教員の実務経験】
研究に精通したゼミ教員が指導にあたる。

【オフィスアワー】
演習日

【教員連絡先】
担当教員の研究室及びGmailアドレス確認のこと

【備考】
特になし

授業科目名	看護研究Ⅱ	担当教員名	渡辺羊子 専任教員			
コード	19NAD417	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年次／通年	単位／時間数／形態	2単位／60時間／演習			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。					
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。					
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。					
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。					
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。					
【授業の概要】						
看護研究Ⅰで作成した研究計画書に基づき、研究の実施、論文の作成・発表を通じて、研究の一連のプロセスを経験する。						
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー	
					①	②
1 倫理的配慮を行いつつ、研究計画書に基づき、厳正な方法論に則ったデータ収集ができる。						○
2 データの分析方法に則り、データ分析が実施できる。						○
3 結果に基づき考察を行い、卒業論文としてまとめることができる。						○
4 研究の概要をわかりやすく発表することができる。						○
5 看護研究が人々の健康にもたらす貢献について考察し記述できる。						○
【授業計画】						
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)			
	この科目の学習課題は、研究計画書に基づき、データ収集、分析、結果、考察を行い、論文としてまとめ、学内で発表することである。 看護研究Ⅰで作成した研究計画書に基づき、実際にデータ収集、分析、結果、考察を行い、看護研究論文としてまとめ、発表までを行うことにより、研究の一連のプロセスを理解する。 看護研究Ⅰと同様、助手を除く全教員のうち、学生の研究テーマに応じ、専門分野を活かして1名の教員が学生3～4名程度を担当する。助教は、専門分野の教授もしくは准教授の助言を受けつつ学生指導を行う。 ・研究計画書の再検討(修正) ・看護学部研究倫理審査会における審議・承認 ・研究計画に基づく実施 ・データ収集、集計 ・データ分析、結果、考察 ・論文作成 ・研究発表会	専任教員	・担当の教員から出された課題を次回までに行い、提示する。 ・自律的な学修活動の進捗状況についても適宜報告をする。			
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫		
①:PBL（課題解決型学習）						
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			○			
③:ディスカッション・ディベート			○			
④:グループワーク			○			
⑤:プレゼンテーション			○			
⑥:実習・フィールドワーク			○			
【課題のフィードバック】						
ゼミ形式:課題をした上でゼミに参画し、フィードバックを受けながら研究を進めていく。						
【成績の評価方法】						
担当教員が評価表に基づいて評価する。						
【生成AI利活用（ 無 ）】						
【ループリック評価の活用（ 無 ）】						
【履修申請上の条件】						
看護研究方法、看護研究Ⅰの履修						
【教科書】						
・黒田裕子 看護研究 Step by Step 第5版 医学書院 2017						
【参考書】						
・南裕子 看護における研究 日本看護協会出版会 2017 ・D.F.ポーリット／C.T.ベック著、近藤潤子監訳 看護研究 原理と方法(第2版)2010 医学書院 ・ナースンググラフィカ 基礎看護学④看護研究 MCメディカ出版 2023 ・早川和生 JJN SPECIAL 看護研究の進め方論文の書き方 第2版 2014 ・横山美江編著 よくわかる看護研究・まとめ方 第3版 医歯薬出版 2017 ・筒井真優美編著 アクションリサーチ入門 ライフサポート社 2010 ・石井京子・多尾清子 ナースのための質問紙調査とデータ分析 第2版 医学書院 2002 他 適宜紹介						
【オープンな教育リソース】						
特になし						
【担当教員の実務経験】						
研究に精通した教員が指導にあたる。						
【オフィスアワー】						
演習日						
【教員連絡先】						
担当教員の研究室及びgmailアドレス						
【備考】						
特になし						